

I K G の
旅館経営再生塾

第一九回

設備投資時の借入金の
返済方法について

（執筆 中村尚和）

借入金の返済方法について深く考えたことがあるだろうか。今回は設備投資時の借入金の返済方法についての話をする。借入金の返済方法はご存知の通り、元金均等と元利均等の二つがある。元金均等とは、毎月の返済額の元金部分が一定である返済方法である。特徴としては、元利均等に比べ、利息の総支払額が若干少ない。借入初期の元金が多い時期は利息が多く返済負担が大きい反面、後半は利息が少ないため返済負担は少ない。

次に元利均等とは、毎月の返済額（支出額）が

一定である返済方法である。特徴としては、元金均等に比べ、利息の総支払額が若干多い。返済額が一定であるため、返済計画が立て易い。以上、それぞれの特徴について説明したが、設備投資の借入金においては、元金均等をお勧めする。確かに、元利均等は返済額が一定で返済計画が立て易い。しかし、借入期間の後半において、修繕、金利の上昇に遭遇した場合、返済方法の性格上、確実に資金繰りを圧迫することになる。これに対して、元金均等は、借入初期において、返済額が多額となってしまうが、設備効率の良い初期に返済して、将来における、修繕、金利上昇に備えることができる保守的な方法と言えよう。

今回は設備投資の例で話をしたが、返済能力や利用用途を考え、返済方法を検討して頂きたい。